

産学官連携による研究活動例 自殺予防プロジェクト うつ病スクリーニングを用いた 高齢者自殺予防活動

研究者代表／大山 博史(社会福祉学科)

自殺の原因はさまざまですが、最大の要因はうつ病です。
青森県内市町村と連携し、うつ病スクリーニングおよび陽性者のフォローを実施しております。自殺者の減少に貢献しています。

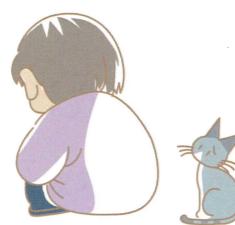


自殺予防プログラムの開発

①うつ病健康教育

②検診方式のうつ病スクリーニング

③メンタルヘルスリテラシーの向上



自殺予防プログラムの効果

例:X地域（65歳以上・人口約1.2万人）では、
自殺者数が減少



自殺予防活動の拡がり

●10市町村でうつ病スクリーニングを実施



青森県の自殺者減少への寄与

近年の青森県の自殺者数減少
(500人台→300人を下回る)に寄与



自殺予防に向けた心の健康づくり

専門家への技術提供、連携体制の構築

メンタルヘルスによる命のセーフティネットの構築



公立大学法人 青森県立保健大学 研究推進・知的財産センター

地域連携推進課 〒030-8505
青森県青森市浜館間瀬58-1

TEL.017(765)4085 FAX.017(765)2021

<Eメール>kenkyu@auhw.ac.jp

<ホームページ><http://www.crip-auhw.jp>

A保健所管内における保健協力員活動の活性化に関する研究

研究者代表／千葉 敦子(看護学科)

大西基喜・石田賢哉・小笠原メリッサ(青森県立保健大学) 宮川隆美・木村美穂子・水木希(東地方保健所) 澤谷悦子・梅庭牧子(青森県国民健康保険団体連合会) 奥村智子(青森県健康福祉部)

青森県は平均寿命が全国で最も低いことから、県民のヘルスリテラシーの向上を目標に、短命県返上へ向けて活動を強化しています。

本研究では、官学が連携して活躍が期待されている保健協力員に関する調査を行います。

保健協力員とは

市町村長の委嘱を受けて、地域住民の健康づくりのために活動する人です。青森県内には約6,000人います。

保健協力員の役割は、

- ①地域の課題を「知る」、
- ②地域の人の声を「伝える」、
- ③住民と行政を「つなぐ」、
- ④地域を「うごかす」



青森県保健協力員ハンドブック第2版、青森県国民健康保険団体連合会、青森県保健協力員会等連絡協議会

研究方法について

方法 東地方保健所管内の全保健協力員約300人に対するアンケート調査により、その意識と活動状況を明らかにする

1 対象	東地方保健所管内の5市町村(1市3町1村)の全保健協力員約300人	方法	自記式質問紙調査法
------	-----------------------------------	----	-----------

方法 東地方保健所管内の5市町村の地域住民に対するインタビュー調査により、保健協力員の認知度、活用状況、健康への影響について明らかにする

2 対象	東地方保健所管内の5市町村の地域住民 それぞれ5~6人程度	方法	フォーカスグループインタビュー
------	-------------------------------	----	-----------------

方法 市町村担当者に対する聞き取り調査により、保健協力員に対するビジョン(サポート体制、育成方針、期待する役割等)を明らかにする

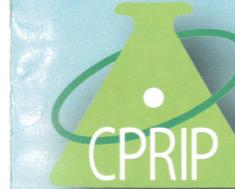
3 対象	東地方保健所管内の5市町村の保健協力員担当保健師等	方法	保健大学研究者による聞き取り調査
------	---------------------------	----	------------------

方法 東地方保健所管内の5市町村の地域住民に対するアンケート調査により、保健協力員の認知度、活用状況、健康への影響について明らかにする

4 対象	各市町村人口の2%にあたる成人(20歳以上)計約880人を対象とする。	方法	自記式質問紙調査法
------	-------------------------------------	----	-----------

得られる成果

保健協力員の現状と課題が明らかになると活動が活性化され、県民のヘルスリテラシーの向上につながることが期待されます。



青森県立保健大学

研究推進・知的財産センター



青森県立保健大学 (1999年黒川紀章設計事務所)

研究者代表／福井 幸子(健康科学部看護学科)

細川満子(本学健康科学部看護学科)

吹田夕起子(日本赤十字秋田看護大学)

矢野久子(名古屋市立大学大学院看護学研究科)

前田ひとみ(熊本大学大学院生命科学研究)

共同研究者 株式会社西山製作所

訪問看護で注射器等を安全に廃棄できる 携帯用医療廃棄物容器の開発



血液で汚染された針による針刺しは、B型肝炎やC型肝炎、HIV等のウイルス感染症に感染する恐れがあります。

医療施設に対して厚生労働省は、リキャップ禁止や注射針専用の廃棄容器の配置、安全器材の活用等を通達し、医療従事者の安全を図っていますが、在宅医療では、訪問看護に携わる看護師の安全をはかる対策は未整備のままであります。

我々が2010年に訪問看護師を対象とした全国調査では、520名中31名(6.0%)が針刺しを経験していました。

針刺し場面の中で廃棄時が多かったため、看護師の安全を図るために廃棄容器の開発に着手しました。

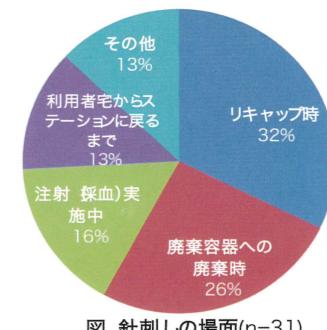


図 鈎刺しの場面(n=31)



針刺し予防に向けて携帯用医療廃棄容器【試作品2015】を完成させ、医療施設等で使用している従来の携帯用廃棄容器と比較して、使いやすさと安全性に関するデータ収集を行い、訪問看護や在宅医療に求められる携帯用廃棄容器の特徴を明らかにする。



診療所や訪問看護に從事する看護師などに【試作品2015】を使用のモニターを募集し、従来の携帯用廃棄容器の使用と比較し、安全性、利便性について回答を得る。

*現在、試行錯誤しながら、【試作品2015】を開発中です。

試作品【2015】

完成予想図



特徴①・② 耐貫通性器材で針を覆う

特徴③ 収納イメージ

①密封容器への納入のみならず、針先を耐貫通性器材で覆うという2重の安全構造とした。このことは貫状針廃棄時の跳ね返りによる針刺し対策ともなる。

②針山に縫い針を刺すように、抜針後、耐貫通性器材に垂直に刺す形にした。これにより咄嗟の事態でも、安全を確保してから対応できる。

③密封した状態でも容器の中味が見える安全性と、仕切りを下すことで、複数の廃棄物を収納できる利便性を図った。
(例：20ml注射器最大2本、貫状針最大4個等)





青森県立保健大学 研究推進・知的財産センターの役割

研究推進・知的財産センターは、学内外の諸機関との連携を図りつつ、本県の地域特性に即した保健医療・福祉分野に関する研究をはじめとする学際的・総合的な教育研究を推進し、県立保健大学の学術研究水準の向上、地域における保健医療・福祉の向上に寄与することを目的としています。

この目的を達成するために、学内の指定研究や特別研究の企画、募集、評価などをはじめ、学術交流・情報交換の促進、学内外との共同研究の支援、受託研究の実施・推進、科学技術相談への対応などを行っています。

- | | |
|-------------------------|--------------|
| ① 学内の指定研究や特別研究の企画、募集、評価 | ④ 受託研究の実施・推進 |
| ② 学術交流・情報交換の促進 | ⑤ 科学技術相談への対応 |
| ③ 学内外との共同研究の支援 | ⑥ 知的財産活動の推進 |



2015年度青森県保健医療福祉研究発表会



2015年 第8回『大学は美味しい!!』フェア

共同研究・受託研究・奨学寄付金制度

各種制度について



一緒に研究をはじめたい方

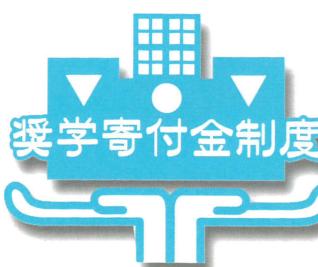
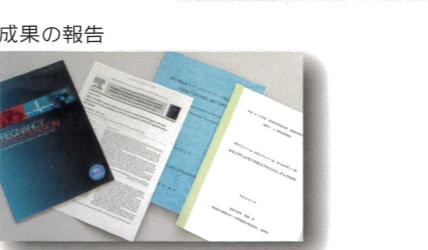
大学と企業等という、互いにバックグラウンドの異なる研究者が協働することで生まれるシナジー効果を促すための制度です。



藤田修三(栄養学科)による小麦の新品種「もち小麦」の機能性研究と、青森県内の企業との連携により生まれた商品「田酒餅」

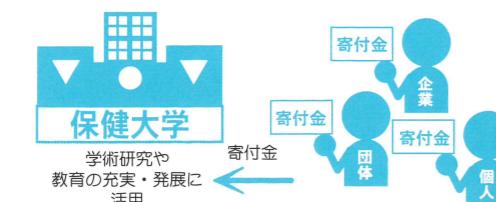
研究課題を委託したい方

企業、試験研究機関、地方公共団体等が、研究機関として大学を利用する制度です。



研究・教育活動を奨励したい方

大学の学術研究や教育の充実・発展に活用するため、県内外の諸機関、団体、個人等から募る寄付金制度です。



共同研究・受託研究・奨学寄付金制度については知財センターHPへ



ヘルスリテラシー促進研究について

本学では、平成27年4月「健やか力（ヘルスリテラシー）向上サポート宣言」をし、地域住民の“健やか力（ヘルスリテラシー）”の向上を支援する人材を育成し、もって地域の課題解決に資することに取組んでいます。

研究推進・知的財産センターでは、学内研究費制度にヘルスリテラシー促進研究を設置し、広く青森県民の健康に関わる課題解決のために、ヘルスリテラシーを向上させるに資することを目的とした研究課題に対して研究費の助成を行っています。

小児及び保護者の野菜摂取に関する研究

ヘルスリテラシー向上のための教育プログラムに関する研究

研究者代表／岩部万衣子(栄養学科)

これまでの関連研究の成果から

野菜摂取量が不足していた小学生と保護者への質問紙調査
(望ましい野菜摂取量350g以上[野菜料理では5皿以上]に達していない人)
子ども(小学5-6年生): 123名、保護者101名[2011年調査]

- ・望ましい野菜摂取量は野菜料理で5~6皿
- ・知らない子ども80%、保護者74%
- ・望ましい野菜摂取量は重量で350g
- ・知らない子ども43%、保護者50%

野菜不足の人では、望ましい摂取量を知らない人がほとんど。
不足していても「自分の摂取量=適量」とと思っている人がほとんどだった。

健やか力の向上が必要

保育施設での野菜摂取向上の教育プログラム検討

2013年に実施した文献調査から、野菜摂取の意識・態度を向上させる方法としてセルフモニタリングが有用である可能性を示唆

実際に保育施設での取組に取り入れ、効果を検討中
＊ヘルスリテラシー(健やか力)とは、自ら健康に関する情報を得て、その情報を理解し、自分にとって適切かを判断して健康改善のために活用できる力のことを言います。

今日的課題に関する研究活動例

ネット依存問題対策に資する教材・カリキュラム

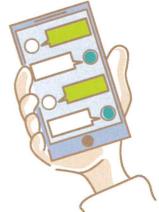
研究者代表／浅田 豊(栄養学科)

方法

文献検討・アンケート調査・行政や民間団体を含む全国ネットワークを通じての対話と交流の促進⇒知見の教材化

⇒その結果を・・・

- ①子ども対象の「ネット依存対応カリキュラム」、
- ②保護者対象の「ネット依存予防・啓発プログラム」等に反映



※本研究はJSPS科研費 26381279(基盤(C))の助成を受けたものです。

平成27年度 センター採択研究課題

【産学連携研究】

もち小麦実用化による地域活性化事業	藤田 修三
訪問看護で注射器等を安全に廃棄できる携帯用医療廃棄物容器の開発	福井 幸子
脂質蓄積抑制作用を有する食資源の作用解明と食品開発に関する研究	岩井 邦久

【ヘルスリテラシー促進研究】

小児及び保護者の野菜摂取に関するヘルスリテラシー向上のための教育プログラムに関する研究	岩部 万衣子
地域で生活する独居高齢者の健やか力向上にむけた健康教育プログラムに関する研究	松尾 泉

【官学連携・地域貢献促進研究】

青森県の地域伝統食品の栄養成分分析とデータベースの構築	秉毅 敏夫
高校生クロスカントリー選手に対する栄養教育の実践とその検証	吉岡 美子
青森県の小学生を対象とした健康教育プログラムの構築に関する研究 一気候・風土による《青森と香港》国際比較研究一	田中 栄利子
職域健診および住民健診におけるメタボリックシンドロームとロコモティブシンドロームのリスク因子および増悪因子に関する横断的・縦断的検討	熊谷 貴子
A保健所管内における保健協力員活動の活性化に関する研究	千葉 敏子
郵送法うつ病スクリーニングによる高齢者自殺予防のための地域介入 —生活機能評価(特定健診)の活用—	大山 博史

【若手奨励研究】

The possibility of accommodating an immersion education option in Japan	マイケル スミス
青森県産食素材からリバーゼ阻害成分の探索	山下 久美子
地域包括支援センターにおける若年性認知症支援に向けた教育プログラムの開発	笠森 佳子
青森県西北地区の児童の食習慣・生活習慣の実態とその後の栄養教育の検討	米谷 瑞紀

抗腫瘍剤、カスパーーゼ阻害剤、イボタケ属担子菌抽出およびその製造方法

(特開2012-036150) (特許査定 平成27年8月31日)

発明者／乗鞍 敏夫、松江 一、成田 嵩信、岩井 邦久、森永 八江

課題

食用実績がある天然物質源を用いて、がん細胞の生細胞を減少させることによる抗腫瘍効果またはカスパーーゼ阻害効果を得ることのできる抗腫瘍剤・カスパーーゼ阻害剤を提供すること。

解決手段

- バイアリニンA(図1)もしくはその誘導体、あるいはまた薬理学的に許容されるこれらの塩を有効成分とする、抗腫瘍剤およびカスパーーゼ阻害剤とする。
- バイアリニンAが、イボタケ科イボタケ属のボタンイボタケ(図2)等担子菌に特徴的に含まれる新発見に基づき、抗腫瘍剤およびカスパーーゼ阻害剤は、イボタケ科イボタケ属の担子菌の抽出物を用い、これを有効成分として構成することができる。
- 担子菌の培地培養物を用いることによって、より安価で品質が均一な抗腫瘍剤、カスパーーゼ阻害剤を得られる。なお、バイアリニンAは化学合成してもよい。

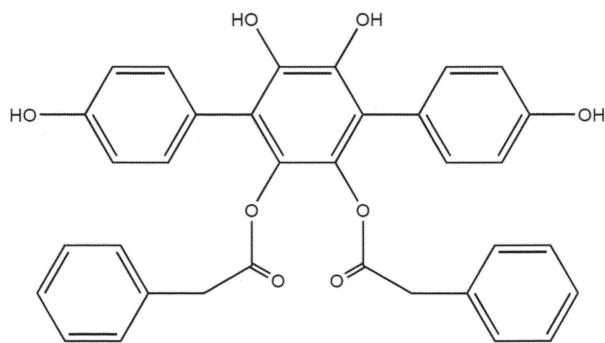


図1 バイアリニンA



図2 ボタンイボタケ

本研究の特徴

- 実用化を見据えた場合、有効成分を明らかにすることは重要である。
- 例えば、有効成分を明らかにして特許出願をしていなければ、類縁の植物(ボタンイボタケの場合、類縁のきのこ)を用いて、同様な製品を他社に作られたり、さらにはvialinin Aと少しだけ化学構造を変えた物質を含む製品を他社に製造されてしまうことがある。

➡ これではお金と時間を投じて開発するメリットが少なくなる。

➡ 本特許は、有効成分を明らかにした上で、特許出願を行い、平成27年8月末に特許査定を受けている。

- カスパーーゼ阻害活性は、パーキンソン病、虚血性疾患、C型肝炎などの複数の疾患治療に有用であると考えられており、医薬品としての用途開発が進められている有望な活性である。

➡ 本特許は、食習慣のある天然物質源からのカスパーーゼ阻害活性を発見した事が特徴である。